

2014. 3. 14 No.1797-県央 毎月第2・第4金曜日発行	特集：絵本の世界へ <hr/> インフォメーション <hr/> みんなワケあり／ CNでWOWOWがスタート <hr/> じまんの一品 <hr/> けせん ra・shi・ku／コラム <hr/> グルメ「銀河離宮」他 <hr/> 特選店「ラ・コッチャーナ」他 <hr/> イベントリスト／映画 Pick Up <hr/>	1~3p <hr/> 4p <hr/> 5p <hr/> 7p <hr/> 9p <hr/> 10p <hr/> 11p <hr/> 12p <hr/>
表行 〒028-8686 岩手県一関市高田町60 TEL 0191-21-5111(営業部) FAX 0191-21-3939 記者部数／145、30部、両版／82,000部、累積版／58,300部、気象版／5,000部		

A promotional poster for ASUMO's free loan campaign. The top half features large balloons and an owl. The bottom half contains text about the campaign, loan rates, and contact information for the bank.



世界の
本
絵
インタビュー
読み聞かせのススメ

読み聞かせは、親子の絆を育む コミュニケーションツール

親子の温かな触れ合いの時間をつくれる絵本。家庭における読み聞かせの大切さについて、岩手県立図書館で児童図書に携わる中嶋由美子さんにお聞きしました。

子供にとって絵本を読んでもらうひとときは、母親など大好きな人の愛情を感じることができる安らぎの時間。



上手に読むことよりも、読む声が「ほかの誰のものでもない、自分だけに向けられた声」であることが子供にとって大きな意味を持つています。親もまた子供の喜ぶ姿を見て温かい気持ちになつたり、子供が今何に興味があるのかを知る機会になるでしょう。絵本を介して親子が絆を深めていく、それが読み聞かせの魅力だと感じています。

大切なのは、しつけや教育の道具にせず、触れ合いながら楽しむこと。喜びや悲しみ、驚きなど素朴な感情がたくさん詰まつた絵本の世界と一緒に味わい、感动し、思いを共感する。

そういう経験の積み重ねから、他者との関わりや社会性、生きるヒントを自然に学んでいきます。空想

また、絵本は読書の入り口であり、子供が

最初に出合う本。だからこそ、子供の成長に合った絵本に触れさせ、本の面白さや楽しさをたくさん味わわせてほしい。

小さな頃に読んでもらつた「温かい記憶」はいくつになつても心の中に残つてゐるもの。それはすてきな財産であり、親から子への最高の贈り物になるはずです。



は、そつと
す
やつた…。
とカメだけ
フルな構図。
ラ、ドキド
くいぼう

イ

イ

イ



出版されて
れている口
も知りたが
矯(あき
は、時代
気。



岩手県立図書館 サービス第2課
(児童サービス担当) 中嶋由美子さん

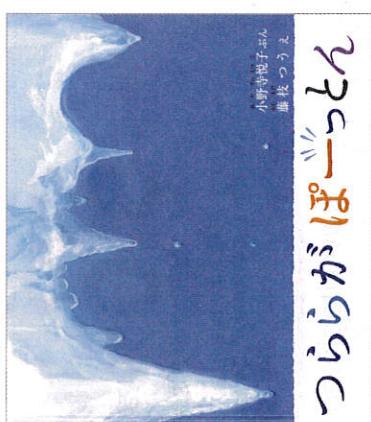
岩手
の
か
り
の
絵
本
家
作
家

小野寺
悦

子
さん



盛岡市生まれ。水沢高校卒業後、地元の放送会社に入社。退職後、創作活動を始める。1994年、子どものための詩の本「これおひさま」(のら書店)で、第42回産経児童出版文化賞推薦受賞。「つららがぼーっと」「しょぼろしょぼろまちのかわ」「やまがあつてね」など、岩手在住ならではの自然觀察をもとにした作品を多数発表している。



つららがぼーっと

文／小野寺悦子 絵／藤枝つう
(福音館書店)

つららに春の訪れを尋ねると、つららの滴が答える。「ぼーっと、ちーかい」。次第に滴のリズムは早くなり…。季節の移ろいをつららと滴が教えてくれる、音の響きが楽しい絵本。



絵本
の
作家

の
作家

オススメ！読み聞かせ絵本



「声に出して読みたい絵本」をテーマに運びました。どれも洗練された美しい日本語でつづられている素晴らしい作品です！」



おおきなかぶ

しづかなおはなし

文／サムイル・マルシャーク
絵／ウラジミル・レーベデフ
訳／内田莉莎子（福音館書店）



大きく育ったカブ。おじいさん一人の力では抜けませぬ。おじいさんはおばあさんを呼んで、おばあさんは孫を呼んで…。うんとこしよ、どっこいしょ！ 一緒になって収穫を楽しもう。

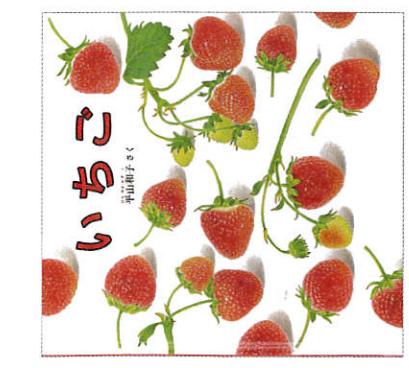
静かな森の道をハリネズミの親子が、とぶ、とぶ、とぶ。歩いていると、そこへ2匹のオオカミが忍び寄ってきて…。題名通り、そつそつと、声を潜めて読みたくなるお話。

雪深い森の中、冬眠から目覚めた動物たち。鼻をくんくんさせながら、みんなが駆けていくその先には…。春に向かってワクワクする気持ちを柔らかいタッチの絵と詩のような文で紡ぐ。

初めてカメを見た子猫は、そつと近づいて、前足でカメをポン！ すると、カメの頭が消えちゃった…。背景は変わらず、子猫とカメだけが動いて展開するシンプルな構図。2匹のやりとりにハラハラ、ドキドキ。

いちご

作／平山和子
(福音館書店)



雪に埋もれていたイチゴの苗。白い花が咲き、小さな緑の実がなつて、だんだん赤く色づいて…。イチゴが出来るまでの様子をイチゴの対話とともに描く。最後はみんなで、あーん、パクパク！

春巻きを食べると、どんな音がするかな？ ウインナーソーセージをかじったら？ ある日の食卓のおいしい音が勢ぞろい。これを読んだら、食事がいっそう楽しくなること請け合い。

1941年にアメリカで出版され以来、世界中で親しまれている口語セラー絵本。何でも知りたがり、やってみたり、愛嬌（あいきょう）たっぷりのジョージは、時代を超えて子供たちに大人気。

資料提供／エムズエクスボス盛岡店 019・648・7100

ケロケロがえるがなくときは

作・絵／浅沼じおる
(鈴木出版)



どんなに晴れていようとも、ケロケロがえるの大合唱が空に昇ると雨が降る。それを知ったオオカミは、カエルたちやつた！ つかまして袋の中に閉じ込めちでも…。

岩手ゆかりの絵本作家
浅沼じおるさん



沼とおるさん